

CTED NewsLetter

Center for Teacher Education and Development, Okayama University

教員採用試験のツボ その十五

学生向け

教採に向けて「教職相談室」を利用しよう

新しい年を迎え、教員採用試験まで半年ほどになってきました。教師を目指す皆さんにとって、今年をよい年にするために、教職相談室で応援できることがあります。

◆教職相談室で応援できること

教職相談室には、教職を経験した専任教員がいます。教職に関する情報の提供をしたり相談に応じたりしています。

◇相談：進路、学校ボランティア活動、採用試験に向けた勉強法など

◇採用試験に向けての支援

小論文、面接、集団討論、模擬授業・口頭試問、場面指導など

◇教師力養成講座の開催

教職に就こうか就くまいか迷っている人も、1年生も2年生も歓迎します。大いに利用してください。

◆「教師としての自分の姿」を描こう◇小論文を書く

採用試験を受験するとき、自分の教育観や指導理念をしっかりとっておくことは、特に大切なことです。それを助けてくれるのが、小論文への取組です。文章を書くには、時間がかかります。しかし、その時間が自分を見直す大切な時間です。限られた小論文の字数の中で、自分の教育への姿勢や意欲を的確に伝えられようようにしておきましょう。その力は、個人面接や集団討論の中で必ず役立つはずで

◇「教師力養成講座」参加とDVD視聴

相談室では、「教師力養成講座」を年間7回開講し、学校現場や教育行政の現場で活躍されている先輩の姿をみなさんに伝えています。講座には、講師の講話だけでなく、参加者間での討論やグループワークも組み入れ、問題の本質とその指導についての理解を深められるようにしています。

現在、新聞やテレビ等で目にする学校現場の情報は、教職に対してマイナスのイメージを与えるものが多いようです。しかし、実際の学校現場には、生き生きと学ぶ子どもたちの姿があり、子どもの指導に喜びを感じながら仕事をしているたくさんの教師がいます。学生の皆さんに届きにくい学校の姿、教師の姿を伝えたいのです。

これまで実施した「教師力養成講座」の内容はDVDに記録しています。それを教職相談室で視聴することもできます。視聴した友達と感想を話し合うことで、自分の教育観や指導理念、さらに教師としての自覚や使命感を培うことができます。

◆相談室を20回以上利用しよう

平成27年度データでは、教職相談室を



利用した回数が多い人ほど教員採用試験の合格率が高くなっています。教職相談室利用回数について、2次試験合格者の平均が約22回、1次試験のみ合格だった人の平均が約15回、1次試験で合格に至らなかった人の平均が約7回となっています。また、教職相談室を21回以上利用した人の2次試験合格率が約8割なのに対して、利用回数が10回以下の人の2次試験合格率は約3割となっています。さらに、1月までに教職相談室を利用し始めた人の7割は、2次試験に合格しています。

教職相談室を繰り返し利用することのメリットとして、教員採用試験をいっしょに受験する仲間ができるということがあります。受験勉強は孤独で忍耐を要するものですが、仲間がいることで支え合い助け合っ

【文責：武藤幹夫】

<開室時間> ※土日祝を除く

10:00~11:30

13:30~17:00

(水曜日は午前のみ開室)

<連絡先>

086-251-7660

今号の主な記事

【特集】教員採用試験のツボ その十五

教採に向けて「教職相談室」を利用しよう

【報告】第5回 教師力養成講座

【報告】スクールボランティア合同説明会

【報告】理科教育への関心を高める一地域を支援するCST事業一

【報告】母校訪問事後指導およびアンケート結果

【報告】岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議開催

【連載】《教員リレーエッセイ》

理数系教員養成事業部門 平野和司 教授(特任)

【連載】教員採用試験受験記：岸本康晃さん(教育学部)

【案内】岡山県「教師への道」インターンシップ事業 シンポジウム

【案内】岡山市学校支援ボランティア シンポジウム

【掲示板】「岡大教職ナビ」最新情報ほか

学生向けにさまざまな企画を実施！

今後の企画は教職ナビをチェックしよう

学生
向け

第5回教師力養成講座 「学校の教育力を高める 『連携』の進め方」



岡山県立瀬戸南高等学校の山根康史校長先生に連携教育のあり方についてお話しいただきました。

冒頭に「十円玉の10がある面を思い出して描く」活動をしました。いつも目しているのにいかに見えていないかを痛感することになります。「ポジティブに見れば見えないものが見えてくる。ネガティブに見れば見えているはずのものが見えない。」という先生のお話から、連携教育のよさ、効果、意義というものをしっかり見ていこうという気持ちが生まれました。

瀬戸南高等学校が地域の小学校と連携して行っている田植え・稲刈り・おにぎりづくりの活動などを紹介していただき、それらの活動が高校生に、あるいは、小学生にどんなメリットをもたらすのか考えました。高校生にとっては、小学生に教えるために調べたり工夫したりすることで、「学びの定着」「学びの深化」「言語活動のトレーニング」などの効果が得られます。また、小学生にとっては、比較的年齢の近い者から学ぶことで、興味・関心が高まり、勤労観や職業観も育成されます。

こうした「校種間連携」も「地域連携」も、それぞれにとってのメリットが明確に見えてくれば活動が一層進んでいくことが分かりました。「立場の違う人の意見を聞くと、見えていないことが見えてくる。」という先生のお話にあるとおり、連携相手としっかり話し合い、子どもの成長につながる連携教育を進めることが大切であると感じました。

【文責：河内智美】

スクールボランティア合同 説明会開催

昨年4月29日の「スクールボランティアフェア2015」では、教職を志す学生が教育支援に関わるボランティア活動に積極的に取り組むことができるよう、学生と教育現場の担当者とが直接交流・対話をしながら、活動を始めるきっかけとなるイベントを開催しました。さらに、昨年12月9日に「スクールボランティア合同説明会」を開催しました。名称は説明会となっていますが、4月のイベントと同様に、教育現場の担当者がブースでボランティア活動について学生に説明・募集を行いました。今回の説明会には、岡山県県民生活部くらし安全安心課、岡山県青少年教育センター閑谷学校、岡山市教育委員会、岡山市岡山っ子育て局、赤磐市教育委員会、早島町教育委員会の6団体にご参加いただき、それぞれのブースで、学生に対して熱心に学校支援や子ども支援のボランティア活動を説明されていました。今回の説明会には、40名近くの学生が参加しました。その学生の多くは、教育学部が実施している「教職ガイダンス」に参加した学生であり、ガイダンスでも学校支援ボランティアへの参加の重要性について説明がありました。説明会に参加した学生からは、「どのような活動か分からず一歩が踏み出せなかったが大変参考になった」「1つ1つの活動がよくわかった」といった声がありました。来年度のスクールボランティアフェアは5月21日（土）を予定しています。学校支援ボランティアを始めるきっかけはまず知ることからです。是非ご参加ください。

【文責：佐藤大介】



理科教育への関心を高める — 地域を支援するCST事業 —



岡山CST養成プログラムでは、「自信をもって理科の指導ができる」「地域の小・中学校の理科教育を推進できる」「指導に困っている先生を支援できる」教師の養成を目的として学生及び現職教員向けのプログラムを実施していますが、学校現場の理科教育への関心を高め、CST養成への理解を図るための取り組みの一つとして、各地域で理科ステップアップ研修会を実施しています。岡山県（岡山市）教育委員会と岡山大学の連携によるこの研修会も5年目となり、本年度も小学校14会場、中学校4会場で開催し、5年間に実施した研修会は延べ87回を数えます。

地域ごとに開催されているステップアップ研修会ですが、いずれも県下の全小・中学校に案内されています。この研修会は、それぞれの地域の先生方による授業公開、参観者と会場校の先生方を交えての指導方法等についての協議会、大学のCST担当者による観察・実験の演習で構成されており、公開授業やその授業についての協議を踏まえた内容で演習が行われます。

研修会に向けて、授業を公開して下さる先生やその地域のCSTの先生方から、教材や観察・実験方法、学習指導案の立て方などの相談を事前に受けたり、研修会場で参加者から日々の授業についての助言を求められたりすることも多々あります。各地域で熱心に取り組まれている先生方の期待に応え、理科教育への関心を持ち続けていただくことに役立つCST事業でありたいと考えています。

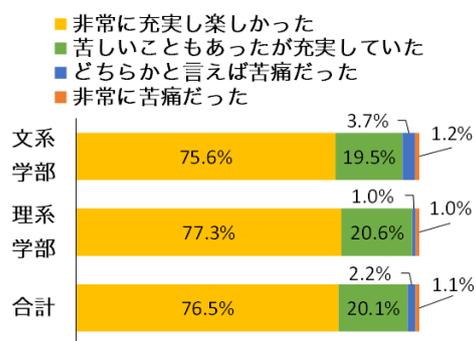
【文責：山崎光洋】

母校訪問事後指導およびアンケート結果

全学の教職課程履修者を対象としたプログラムである母校訪問の事後指導が昨年10月に実施されました。文系の学生、理系の学生合わせて180名程度の学生が事後指導に参加し、無事母校訪問のプログラムを終えることができました。事後指導の中で実施したグループワークでは、“生徒に応じた指導の重要性に気づいた”、“観察した授業で先生はいきなり授業の本題に入るのではなく、ウォーミングアップをしてから授業に入るという工夫をしていた”などの声が飛び交うなど母校訪問での学びの様子が窺えました。中には、普通の大学の講義で学んだことと母校訪問を関連付けながら経験をプレゼンテーションしている学生もいました。

また、事後指導で実施したアンケート結果をいくつか紹介したいと思います。母校訪問の充実度を尋ねた設問では、図1のような結果になりました。“非常に充実し楽しかった”と回答している学生が76.5%

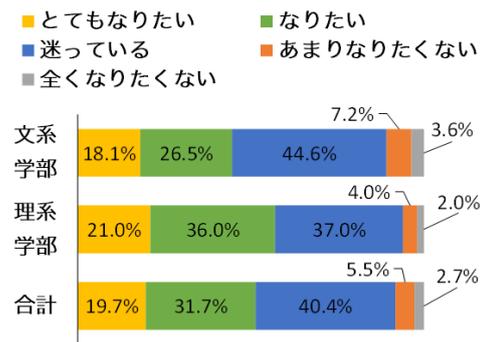
図1 母校訪問充実度



を占めています。これは母校訪問というプログラムが学生の皆さんにとって充実したプログラムであることを示している結果と言えるでしょう。また、“苦しいこともあったが充実していた”の20.1%の回答も足し合わせると、9割を超える学生が充実したと答えていることとなります。また、母校訪問では、自分が取得しようと思っている免許教科の授業を最低1時間は観察させてもらうことと恩師への1時間程度のインタビューを取り組むべき内容として設定しています。このうち、実際、専門とする教科の授業を何時間観察させていただいたのかという設問への回答を見てみると、多くの方は2時間以上の授業観察を行っており、中には、7時間と回答している人も複数いました。学生の皆さんのやる気と共に、卒業生でもある皆さんに学びの機会を多く提供したいという母校の先生方の温かい思いが窺えます。

最後に、現時点で教師にどの程度なりたいと考えているかという教職志望度に関し

図2 教職志望度



て見てみます。結果を見ると、“とてもなりたい”“なりたい”を合わせると51.4%の人が現時点で教師になりたいと回答しているという結果でした(図2)。全学教職オリエンテーション時の回答と比べると、教師になりたい学生が増えていることが考えられ、母校訪問というプログラムが学生の教職志望度を高めている可能性が窺えます。

このように学生に有意義な経験をさせて下さった関係者の皆さんにこの場を借りて厚くお礼申し上げますと共に、学生の皆さんの今後のさらなる成長を期待しています。

【文責：三島知剛】



岡山県・岡山市教育委員会との「合同連携協力会議」開催

岡山県・市教育委員会と岡山大学との合同連携協力会議が、昨年の11月6日に岡山大学で開催され、「教育委員会との連携による学部及び大学院段階における教員養成のあり方」を柱に協議・意見交換等が行われました。まず、教職大学院の現職派遣教員について、「現任校のみならず地域の学校の改革・改善にも寄与する体系的な学修システムの構築」、また「1年目から現任校、地域の学校等の仕事に関わる等、学修体制の見直し」、さらに「特別支援教育の専門的指導者の養成」等について意見交換を行い、合わせて、教育委員会から、本

年度中に策定予定である「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針(案)」の概要説明がありました。続いて、平成30年度を目途に検討している「教育学部・大学院教育学研究科の改組」の概要説明や「学生の学校支援ボランティア活動の一層の充実に向けての改善策等」の説明があり、このことについて意見交換を行いました。報告・連絡事項では、昨今の複雑・多様化している学校教育現場で、苦悩している若い教員を支援するための「初任者等メンタルケア事業」の進め方、「岡山大学スクールボランティア支援システム」の開発状況や

「現職教員の新たな免許状取得を促進するための講習等開発事業」等の報告があり、閉会となりました。【文責：山根文男】



「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは配信した最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページをご覧ください。

教員・講師等募集情報

- 丸亀市立幼稚園 幼稚園臨時講師
- KTC中央高等学院 教員
- 屋久島おおぞら高等学校 教諭
- 岡山商科大学附属高等学校 非常勤
- 上尾市教育委員会 臨時教員
- 総社市教育委員会 幼稚園講師
- 近大附属豊岡中・高等学校 非常勤
- 兵庫県立相生産業高等学校 臨時講師
- 同志社女子中学校・高等学校 嘱託講師
- 学校法人津田学園 教育職員
- 学校法人智辯学園 常勤教諭
- 学校法人鎮西敬愛学園 専任教諭
- 園田学園中・高等学校 常勤講師
- 学校法人久宝文化学院 幼稚園教諭
- 坂出第一高等学校 常勤講師等
- 洛南高等学校附属小学校 常勤教員

スクールボランティア募集情報

- 岡山市立富山小学校児童クラブ補助員
- 岡山県立岡山支援学校
- 【兵庫県】保育士体験ボランティア
- 岡山県教育庁生涯学習課(放課後学習支援)
- 岡山市立妹尾中学校
- 岡山市立福浜小学校
- NPO法人ポケットサポート(学習支援)

教員リレー・エッセイ「知的好奇心をくすぐるひと手間」

理数系教員養成事業部門 平野 和司 教授(特任)

教師教育開発センター理数系教員養成事業部門に勤務して4年目を迎えました。小・中学校の理科教育を推進できる先生を育てることに日々尽力しています。

ある調査によると、教職経験の少ない若手の小学校教師の約6割以上が、理科の学習指導に苦手意識を持っているようです。理科の授業は観察や実験を通して学習するという側面があるため、「観察・実験が想定していたようにできるか」や、「実験中に思わぬ事態が生じたときにどうしたらいいか」等々、不安に感じ、苦手意識を抱くのも当然かもしれません。

一方で、私の経験上、子どもたちは自然の事物現象に対して非常に好奇心旺盛です。また、幼少期において、自然の事物現象に触れる体験や感動は、「自然愛護の心」や「命の大切さ」「創造力」など、人間形成の根っこの部分の育成に与える影響が少なくありません。

したがって、子どもの健全な育成のためにも、小学校の教師としては、理科の授業にできる限りの力を注ぐことが大切だと考えます。具体的には、ある現象を学ぶために行われる観察・実験を、事前に子どもたちの目線でやってみるといふひと手間をかけることが非常に重要であると思います。このひと手間をかけることで、「限られた時間内で、その実験から得られる鍵となる事実に気付くことができるか」を確認することができます。また、実験の危険性や実験をより安全に行うためのポイントや配慮事項なども実感をもって理解することができるようになります。

このように、ひと手間をかけることで、子どもたちが安全に、楽しく学べる理科の授業ができるようになるのではないのでしょうか。

子どもたちの知的好奇心の芽を育て、「科学する心」を少しずつ醸成していけるような楽しい理科の授業ができるように、一人でも多くの先生が「ひと手間かけるコツ」をつかみ、工夫や挑戦を続けて下さることを大いに期待しています。



<教員採用試験受験記> 兵庫県 中学校教諭 合格

合格

教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース(社会科専攻) 岸本康晃 さん

3年生の3月まで部活に明け暮れ、しかも4年生になっても実習等に追われたため、教員採用試験に向けての準備は周りに比べてもかなりの遅れをとっていました。

そんな中で私が意識したことは「『人』

の力を借りて頑張る」ということです。ゼミには、自分よりもずっと前から教採の勉強に取り組んでいる仲間もたくさんいました。そんな仲間の頑張る姿を見て「自分も頑張ろう」と自分を奮い立たせました。

また、教職相談室の先生方にもお世話になり、小論文・面接・模擬授業等の指導をしていただきました。また、仲間同士でも

積極的に面接や模擬授業の練習をして、試験形式に慣れていきました。先生や仲間からの指摘から初めて気づくことも多く、こうした学びはとて有意義なものでした。

岡大には、教採を共に受験する仲間とそれをサポートして下さる先生方がたくさんいます。皆さんも『人』の力を借りながら、夢に向かって前進してください。

岡山市

学校支援ボランティアシンポジウム

日にち：平成28年2月20日(土) 9:45~12:30

場所：教育学部講義棟5202教室 ※受付9:15~

ボランティア活動に関心のある方ならどなたでも大歓迎!

学校園でのボランティア活動経験が君の未来を変える♪

★詳細は決まり次第センターホームページでお知らせします★

岡山県

「教師への道」インターンシップシンポジウム (兼「教師への道」研修第7日目)

日にち：平成28年3月13日(日) 13:00~16:00

場所：岡山大学自然科学研究科棟 大会議室

*参加対象…県内大学・大学院・短期大学の学生(なら誰でも)
(特に、次年度に大学3年生、修士1年生となる学生)

*内容………学生による実践報告、講演、指導助言等

★詳細は決まり次第センターホームページでお知らせします★

